

メイクル新聞

2024年 冬号

編集・発行

社会福祉法人メイクルタウン
〒633-0065
奈良県桜井市吉備六三八ノ五
TEL 0744-404611・154433
FAX 0744-404611・154400
メール info-mt@m5.kcn.ne.jp

2年に1度の日帰り旅行の日が近づくと、みんながそれぞれ始めます。「天気は良さそうやけど、寒くなる言うてましたわ」、「お肉、楽しみやわあ」などと弾んだ声が聞こえていました。

当日は朝から快晴で、少し肌寒くはありましたが、まずまずのお出かけ日和。順番にお迎えに行き、トラブルなく近鉄特急さくらライナーに乗りこむことができました。阿部野橋までの特急の中でも、みなさんのワクワクした気持ちがあふれ、となり合った職員とにこやかに話をする姿があちこちで見られました。職員も、リラックスした雰囲気の中で、利用者みなさんとお話を楽しんでいる様子でした。

天王寺動物園へは、初めて来るという人が多かった（天王寺が初めて、大阪が初めてという人も多数！）のですが、すべての動物をカメラにおさめようと園内をくまなく周ったり、クイズの答えを探して一生けん命歩き回ったり、動物そのものよりも、動物園の雰囲気を楽しむのがらゆつくり歩いたり、それぞれに楽しみ方があるようでした。

9時30分の開園前から11時すぎまで、歩きどおしだった

ので、ハルカスダイニングに着くころにはお腹がペコペコになっていました。柔らかなお肉に感動しながら、「ご飯やスープもしっかりおかわりして、焼肉ランチをゆつくりと味わいました。

食事が終わると、ハルカス展望台へと移動します。16階からエレベーターに乗り、あっという間に地上300メートルの世界へ。60階からの景色はというと、真下を見るとさすがに足がすくんでしまいますが、見渡すと大阪を広く一望でき、そこには無数のビル群や家々が連なっていて、めったに見ることのできない絶景でした。

ハルカスでお土産を選んで地上におりると、帰りの特急の乗車時間が近づいていました。青の交響曲（シンフォニー）という名のクラシカルな特急に乗り、「楽しかったなあ」、「私、動物園が一番良かったわ」・・・と口々に感想を言い合いながら帰路につきました。

今年の旅行も、参加したみなさんが満足してくれたようで、そのような感想をたくさんいただきました。嬉しく思います。ただ、少し課題も見えてきたようです。それは・・・

特急から降りた時、階段をのぼった後、エスカレーターを降

りた後など、さまざまな場所でもみなさんが急に立ち止まる場面を、非常に多く見かけました。他にも、大勢で道いっばいに広がって歩いたり、電車の中で大きな声で話をしたりということもありました。後ろや周りに人がいることを全く意識していない様子が気になりました。

今回は電車に乗って、人の多く集まる場所に行ったため、余計に目立ったのかもしれない。でも、公共の場所では、できる限りルールを守り、まわりの人に気を配る必要があります。そのことを理解していないか、考えていない人がとても多かったように感じます。

利用者のみなさんがふだん公共の場所へ出かける機会が少ないことが原因のひとつだと思いますが、そういうルールやマナーを学び、身につける機会も少なかったからということもあるではないかと考えています。

私たちだけが旅行を楽しんだらそれでよしとするのではなく、社会の一員として、公共のルールやマナーを守り、他のみなさんにもお出かけを楽しんでもらおう。そういう風に思って、行動してもらえよう、取り組みをしていきたいと思います。



連載企画 職員のつぶやき（第二十四回）

はじめまして！

角田 絵美

この度、ご縁があり11月より「メイクルタウン」で働かせていただくことになりました。

少し私自身のお話をさせてください。私はもともと障害福祉サービス事業所で栄養士として10年以上働いておりました。働くうえで日々迷いや悩むこともたくさんありましたが、召し上がっていただいた方に「美味しかったよ、ありがとう。」「もうこの季節なんやねー。」と食べ物から四季を感じてもらい、皆さんと一緒に喜びを感じながらやりがいを持ち働いていました。

しかし、そんな私に転機が訪れました。栄養士として働いていましたが、業務上の都合により支援員としても働くこととなりました。支援員としての経験や知識もほとんど皆無であったため、正直最初は私に務まるか不安や戸惑いがありました。そのため、知識や技術の習得が必要であると思い、介護福祉士の資格を取得しました。

今までは栄養士と支援員の仕事内容は別物と思っていました。しか

し、業務に携わるなかで「人」に関わる点では同じであると気づきました。支援の中で最初は声かけに対して伝わらないことが多かったですが、日々接する中で笑顔も見られ、思いが伝わるようになりうれしく思いました。

支援員としてはまだ通算して2年目と経験も浅いですが、日々ご利用者に「どのような特性があり、強みは何であるか？」「どのような声かけが伝わるのか？支援の在り方」など考えています。そして、ご利用者との出会いを大切に責任を持ち関わりたいと思います。

就職しひと月ほどですが、不慣れな点も多くご迷惑もおかけしますが、精一杯頑張りたいと思います。

つたない文章ではありましたが、最後までご一読いただき感謝申し上げます。今後とも暖かい目で見守っていただけたら幸いです。

